第２２９回企画展

「もっと楽しい！おひなさま」

開催期間：令和5年2月18日（土）～4月3日（月）

開催にあたって

北前船によって江戸や京都から酒田へ運ばれ、大切に伝えられて来たお雛様。資料館のお雛様は市民の方からご寄贈いただいたお人形がほとんどで、古いものは江戸時代の制作と思われます。また、手まりや民芸品など、お雛様と一緒に飾ったさまざまな品物があり、毎年展示の際にはどのように飾ろうか迷ってしまいます。

皆さんもご家庭でお雛様を飾るときに、お雛様や道具などをどう並べたら良いのかと考えることはありませんか？今回の企画展では、お雛様の歴史や飾り方、鑑賞のポイントを詳しく、やさしく解説します。知っているようで知らなかったお雛様の豆知識も紹介します。ご家庭でお雛様を飾る際にお役立ていただいたり、お人形の役割や道具の由来について、話に花を咲かせていただければと思います。

酒田とお雛様

酒田にはどうして古いお雛様が数多く残っているのでしょうか。それは、お雛様の生産地である江戸や京都と、北前船による交流があったからです。

江戸時代の酒田は、寛文12年（1672）に河村瑞賢が整備した西廻り航路によって江戸や大坂と直結するようになり、港町として繁栄しました。北前船によって各地の名産品が運びこまれ、商品を扱う問屋や来訪者のための宿、幕府米の管理を行う蔵宿などが商業の中心となりました。

また江戸時代には、お雛様を飾って祝う形式の雛祭りが一般の人たちの間にだんだんと広まり、江戸時代中頃からは盛んに行われるようになっていきました。

最上川流域の米や特産品を運んだ北前船は、江戸や京都から酒田へ戻る際、名産品や日用品とともに雛人形を運んできたと考えられます。美しく豪華な雛人形は、裕福な商人たちによって買い求められました。

お雛様の中には、江戸から陸路を通って運ばれたものもあるとされています。資料館のお雛様が具体的にどのように運ばれたのか、北前船によるのか陸路であったのかは残念ながら分かりません。陸路で運ばれた場合は、壊れないように部品ごとに細かく分け、丁寧に包んで運び、酒田で組み立てて販売されたそうです。

享保雛／江戸時代／資料館寄託

享保雛は、江戸時代中期、享保（１７１６～１７３６）のころに流行したとされる雛人形です。町屋などで飾られ、大型のものが多く制作されました。

制作は明治時代まで続き、「享保雛」という名前も明治になってから付けられました。

雛壇のお雛さまは何をしている？

雛人形が模しているのは、宮中の結婚式です。この結婚式の主役である男雛と女雛は、天皇陛下と皇后陛下を表しています。男雛と女雛は一対で「内裏雛（だいりびな）」といいます。

「内裏」は天皇の宮殿（御所）を意味し、「お雛様」は雛壇の人形すべてを指します。 本来、男雛を「お内裏様」、女雛を「お雛様」と呼ぶのは誤りですが、童謡「うれしいひなまつり」の歌詞で歌われるようになったことから、一般的にそう呼ばれるようになりました。

内裏雛の左右は？

現在の内裏雛は、向かって左が男雛、右が女雛で飾られていることが多いですが、江戸時代から大正時代までは、向かって右が男雛、左が女雛が一般的でした。これは古くから「左（向かって右）が上位」という考えが根付いていたからです。

並び方が逆転したのは、昭和になってからです。昭和3年（1928）に行われた昭和天皇の即位式の並び方が、向かって左が天皇、右が皇后だったため、これを東京の人形関係者が参考にし、向かって右が女雛、左が男雛と決めたそうです。しかし、御所のある京都では、江戸時代からの並び方を受け継いでいます。

田中家の古今雛（江戸製）
江戸後期～明治初期

田中家の古今雛（京都製）
江戸後期～明治初期

田中家は元禄期（１６８８～１７０４）から続く旧家で、昭和期までは酒蔵「舞鶴」を営んでいました。内裏雛の一方は江戸製、もう一方は京都製です。

雛祭りの由来と立雛

雛祭りは、「五節供（ごせっく）」のひとつ「上巳（じょうし）の節供」です。もとは奈良時代に中国から伝わった儀式で、三月最初の巳の日もしくは三日に、人形（ひとかた）で体をなでて穢（けが）れを移し、水辺に流して災厄を払うものでした。平安時代以降、貴族の子どもたちの「ひいな遊び(※)」と結びつき、やがて雛祭りになったとされています。

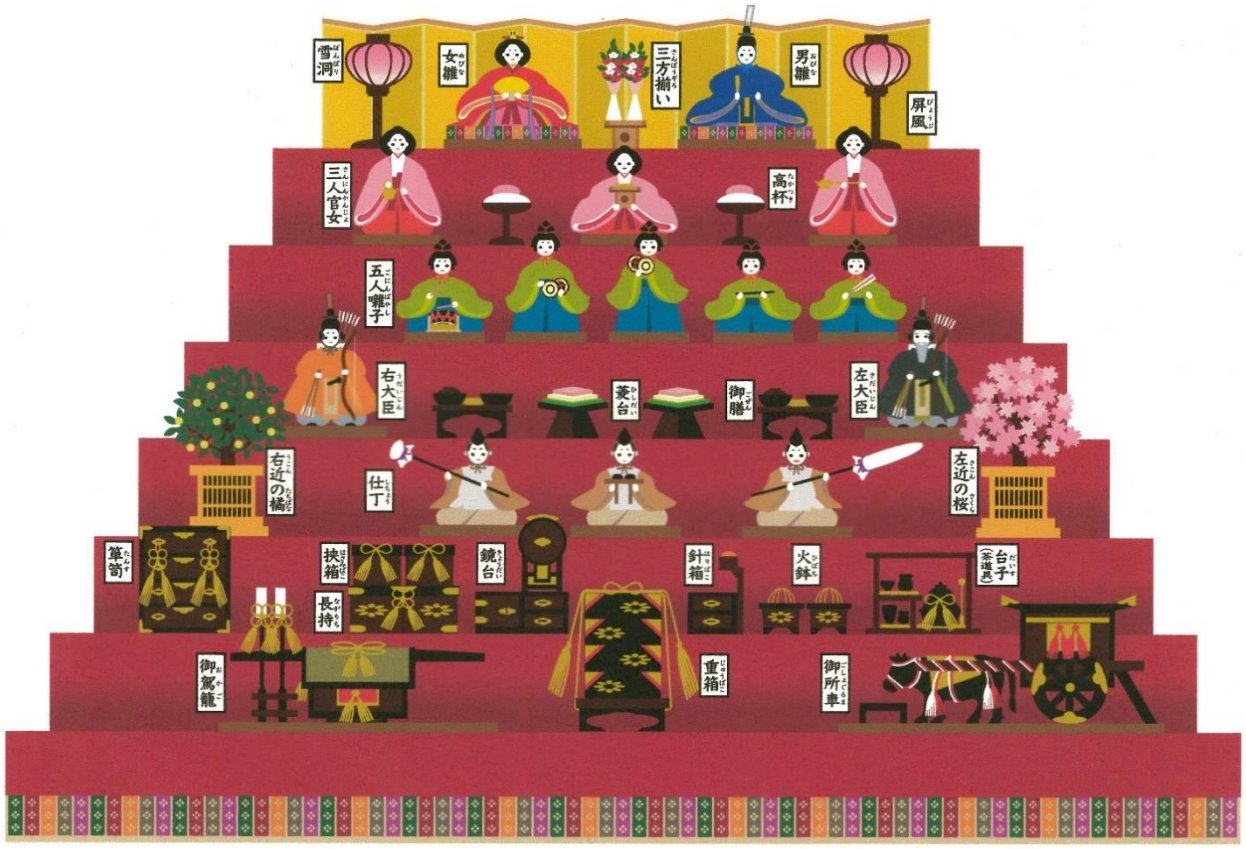
室町時代頃に登場したと考えられる古い形のお雛様「立雛」は、紙で出来ていることから、「紙雛」または「神雛」とも呼ばれます。頭部のみ土や木で作っている場合もあります。男女一対で寄り添う形が特徴で、屏風などにもたせかけて飾られました。上巳の節供で使われる人形（ひとかた）を思わせる、平面的で簡素な形をしています。

※ひいな遊び…小さな人形や家具を使った、おままごとのような遊び。

立雛

お雛様の飾り方とそれぞれの人形の役割

★お内裏様の左右に厳密な決まりはありませんが、イラストは、江戸時代以来の古い並べ方を紹介しています。



参考文献：藤田順子『雛の庄内二都物語』

三人官女の役割は？

お雛様は、宮中の結婚式の様子を模しており、結婚式でお酒を注ぐ役割もありました。そのため、三人の女性たちはお酒入りの銚子や供物をのせた三方を持っています。

並べ方は、向かって右から、「長柄銚子（ながえちょうし）」「三方（さんぼう）」「加え銚子（くわちょうし）」の順です。中央の三方を持っている女性は、結婚しているので、眉がなかったり、お歯黒をしていることもあります。

五人囃子の並び方は？

五人囃子は、室町時代に生まれた「能楽」という音楽を演奏する五人の少年たちです。演奏で結婚式を盛り上げています。向かって右端から、扇を手にしてうたう「謡」の少年。その隣に「横笛」「小鼓」「大鼓」「太鼓」と、音が大きくなるように並んでいます。

五人囃子の他に、雅楽の楽人になぞらえた「五楽人」を飾る家庭もあります。五人囃子は元服前の少年ですが、五楽人は元服後の成人男子の姿をしています。五楽人は、雅楽の舞台に従い、向かって右から「羯鼓」「笙」「火焔太鼓」「縦笛」「横笛」の順で並べます。

どっちが左大臣で、どっちが右大臣？

「左大臣」と「右大臣」は宮中の警護をする武芸に秀でた男性たちです。どちらも弓矢を持っています。向かって右側のひげを生やした老人が左大臣で、左側の若者が右大臣です。位が高いのは左大臣です。

童謡「うれしいひなまつり」の歌詞では、「赤いお顔の右大臣」となっていますが、白酒を召されて赤いお顔をしているのは左大臣です。人形の左右は内裏雛から見た左右に従って並べるため、対面から見ると左右逆になります。作詞したサトウハチローは、晩年まで歌詞の間違いを気にしていたそうです。

仕丁になるのはどんな身分の人？

仕丁は、宮中で掃除などの雑用をする、地方からの労働者です。雛人形の中では唯一の庶民です。君主の命令により、無報酬の3年交代制で働かされていました。

仕丁は、怒り顔、泣き顔、笑い顔と表情が異なり、「三人上戸」と呼ばれることもあります。さまざまな事情で宮中に仕えているため、喜怒哀楽が表現されていると言われています。

並べ方は、向かって右から柄の長い「立傘」、くつをのせる「沓台」、帽子をかける「台笠」の順。お内裏様が出掛ける時の道具です。持ち物が「熊手」「塵取」「箒」に代わることもあります。

演奏で結婚式を盛り上げる五人囃子

能楽を奏で、宮中の結婚式を盛り上げる五人囃子は、衣装や顔立ちなど見所がたくさんあります。

五人囃子/江戸時代

丸顔の可愛らしい五人囃子。衣装の袖部分には花柄の刺繍が施され、紺地の素袍（すおう）という上着を脱いで演奏している人形もあります。

五人囃子/年代不明

可愛らしい表情の五人囃子。衣装の袖部分にはビロードのような生地が使われ、波に千鳥が刺繍されています。他の五人囃子よりもサイズが大きく、楽器も精巧に作られています。

五人囃子/江戸時代後期

にこやかな表情豊かな五人囃子。頭には三角に尖った侍烏帽子（さむらいえぼし）を被っています。紺地の雲模様の素袍を脱いで演奏している人形もあります。

押絵のおひなさま

押絵は、幕末から明治にかけて、京都をはじめとして秋田や松本など、全国各地で盛んに作られました。

販売用に大量生産され、女性の手芸品として作られることが多かったのですが、庄内地方では中級以上の武士や上層農民、町人の旦那衆の娯楽として作られました。各自趣向を凝らして、同好の人と自慢し合って楽しんだといいます。趣味として作られたものなので、まったく同じものは無いのも特徴です。

雛菓子/年代不明

内裏雛/年代不明

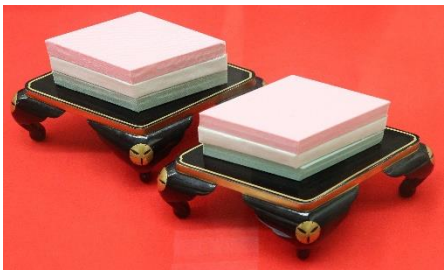
五人囃子/年代不明

雛道具ってどんなものがあるの？

雛道具は、お祝いの席にあった飾りや料理、嫁入り道具などを表しています。小さく作られていますが、どれも精巧に作られています。

①

②



③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

①高坏（たかつき）　料理をのせる脚つきの台。
縁起のよい紅白餅が置かれることが多いです。

②菱台（ひしだい）　菱餅をのせる台。
菱餅（ひしもち）　雪の下に新芽が芽吹き、桃の花が咲いく春の情景を表しています。くちなしを入れた赤い餅は厄よけを、菱の実を入れた白い餅は清浄を、蓬（よもぎ）を入れた緑の餅は健康をあらわしています。

③御膳（ごぜん）　お祝いの料理を盛りつけた食器。

④針箱（はりばこ）　針仕事の道具を入れる箱。

⑤鏡台（きょうだい）　鏡をのせる台。

⑥挟箱（はさみばこ）　外出の際に、衣類や履物を入れた箱。
長持（ながもち）　衣類や調度品を入れた、ふた付きの大型の箱。

⑦箪笥（たんす）　衣服・小道具を整理・保管するのに用いる家具。

⑧重箱（じゅうばこ）　何枚にも重ねられる、お祝いの料理を入れる箱。

右近の橘と左近の桜

内裏雛から見て右が右近の橘、左が左近の桜です。
橘は冬に花が咲くことから、不老長寿の木としてあがめられ、桜は魔よけや邪気払いの効果があると考えられています。
この 2 本の木は、昔から京都御所の紫宸殿（ししんでん）の前庭に植えられ、今も見ることができます。

～おひなさまを彩るさまざまな飾り物～

貝合わせ

貝合わせは、たくさん並べたはまぐりの貝殻のなかから、対になる２枚を見つける、トランプの神経衰弱のような遊びです。殻の内側には、絵が描かれていたり、和歌を上の句と下の句に分けて書いたものもありました。平安時代に始まり、主に女性がたしなむ遊びとして親しまれました。

はまぐりは、対の貝殻としか形が合わないことから、将来の幸せな結婚を祈る縁起物とされています。美しい絵が描かれた貝合わせのはまぐりは、今も雛道具として飾られます。

子どもの着物

昔は商家などに飾られたお雛様を、地域の子どもたちが見てまわる「雛巡り」という風習がありました。お雛様を眺めながら、甘酒やお菓子をご馳走になったりしたのでしょう。こうした綺麗な着物を着て出かけたのかもしれませんね。

紅地梅牡丹模様振袖/昭和期

宝尽くし

縁起物を集めた吉祥紋様「宝尽くし」を、お雛様の飾りにしたものです。

宝珠（ほうじゅ）
願いを叶えてくれる珠。密教（みっきょう）の法具。

七宝（しっぽう）
円が無限につながる「七宝繋（つな）ぎ」模様。

分銅（ふんどう）
はかりで重さをはかるおもり。
金銀で作り、もしもの時に備える。

宝鍵（ほうやく）
金庫や蔵の鍵。

丁字（ちょうじ）
常緑で良い香りの丁字の実。

隠（かく）れ笠（がさ）・隠（かく）れ蓑（みの）
姿を隠して危険から身を守る。

お雛様を彩る絵紙

お雛様と一緒に飾る品物は各家庭によってさまざまですが、絵紙(錦絵)も好んで飾りました。
華やかな女性たちや各地の名所、歌舞伎の名場面などを題材にした版画絵です。

絵紙「花盛り美人揃」/豊原国周作/明治時代

絵紙「雪月花」/揚州周延作/明治時代

絵紙「陸奥松島観覧亭ヨリ千島ノ眺望」
揚州周延作/明治時代

幕仕立ての絵紙/明治時代

絵紙をつなぎ合わせ、一枚の幕に仕立てています。絵紙の版元に「日本橋」や「浅草」等とあり、東京土産として買い求められたものでしょう。

左の幕のうち一番下の絵紙には、立雛の柄の着物を着た女性が描かれています。

資料館のお雛様

橋本家の古今雛/江戸時代後期

橋本家の芥子雛/明治時代

橋本家は酒田の銘酒「上喜元」の酒造元です。雛祭りの季節は杜氏をはじめ蔵人たちが酒造りに勤しむ時季です。戦前から、お雛様が橋本家のお座敷に飾られるのを楽しみに、お雛見に訪れる人が多かったそうです。古今雛のお内裏様は、江戸時代後期に制作された人形と思われ、頭部は京都製、胴体は江戸製です。その他の人形は明治時代に作られたと思われます。また、明治時代の制作と思われる芥子雛もあります。

古今雛/江戸～明治時代

古今雛/江戸時代

鶴岡の旧庄内藩士の家に伝わったという古今雛です。古今雛は江戸時代の後半に製造が始まりました。江戸・池ノ端の大槌屋半兵衛が江戸を代表する名工・原舟月に作らせて売り出しました。それまでの雛の衣装を一層華やかにして、金糸・色糸などで縫いとりをほどこして仕上げており、顔も写実的で眼にガラスなどをはめ込み精巧に作られています。江戸好の雛人形として大流行し、上方でも人気を得ました。古今雛という名前は大槌屋が売り出すときに付けた、いわゆるブランド名です。

宇野家の芥子雛/明治時代

芥子雛は江戸時代中期以降に流行した、高さ3寸(約10cm)以下の小さなお雛様です。大型の豪華な雛が、倹約を推し進める幕府によって制限されたことをきっかけに生み出されました。
芥子粒のように小さいという意味から、芥子雛と名付けられました。

【参考文献】
藤田順子著 『雛の庄内二都物語　酒田と鶴岡のお雛さま拝見』 SPOONの本　2000 年
藤田順子著 『雛と雛の物語り』 暮しの手帖社　2003 年
虎屋文庫編 『虎屋のお雛様』 株式会社虎屋　2006 年
堀川理万子著 『おひなさまの平安生活えほん』 あすなろ書房　2020 年